

「第二回生徒による授業評価」アンケート分析・結果について

標記の結果がまとまりましたのでご報告いたします。このアンケートは生徒自らを振り返る部分と、授業を評価する部分とから成り立っています。保護者の皆様におかれましても、このアンケートを一つの材料として、授業のみならず学校生活全般についてお子様と話す機会を設けていただき、率直なご意見・ご感想をお寄せいただければと存じます。なお、授業評価アンケートの集計結果を本校ホームページに掲載しております。合わせてご覧ください。

本校ホームページ： <http://www.ikutahigashi-h.pen-kanagawa.ed.jp/>

「生徒による授業評価」アンケート分析結果と今後の対応

| | |
|--------|--|
| 国語科 | 第一回に比べ、すべての項目で「4」の率が上昇しており、教員側の工夫、生徒の取り組みともに向上していることがわかる。一方、「生徒同士で話し合う機会や意見などを発表する機会がある」の項目では「1」の率が上がっている。教員の講義中心の授業から、生徒による主体的な話し合いと発表の機会の豊富な、深い学びにつながる授業への転換を図る必要がある。講義が有効な場面もあるが、毎回の授業に活動の機会を少しでも作ることは、生徒の主体性への意識を高め、国語嫌いを減らし、学習内容の定着にもよい影響を与えると考える。活動時間確保のために、授業時間を有効に活用できるよう、入念な授業準備を行ってきたい。 |
| 地歴・公民科 | 多くの生徒が授業に対して意欲的に取り組み、自ら理解しようと努めていることが読み取れるが、その一方で、「授業中に、生徒同士で話し合う機会や意見を発表する機会がある」という項目については、不満足を感じている生徒が多い。全体的には、基礎的・基本的知識の理解に重点を置いているために講義形式の授業が多い1学年にこの傾向が顕著に見られる。生徒同士の協議・発表の機会を設けるためには基礎・基本的知識が必要である。知識習得の徹底をはかりつつ、協議や発表を多く取り入れた授業展開を心がけていく。また必要に応じて ICT 教材を使用し、視覚教材をもとにアクティブ・ラーニングを行っていく。 |
| 数学科 | 第一回に比べて、「授業中、生徒同士で話し合う機会や意見などを発表する機会がある」の肯定的回答が約 10%上がった。また、「生徒一人ひとりに目を配った、きめ細かい指導がなされている」の肯定的回答も、前回に引き続き約 94%となっていて、評価は高い。その他の項目についてもわずかながら全体的に改善がみられる。授業中にプリントや小テストを積極的に利用し、理解を一層深めさせていきたい。また、1年「数学Ⅰ」の習熟度別授業を中心として、今後も生徒一人ひとりの理解力に応じた指導をしていきたい。 |
| 理科 | 「授業内容が理解できる」「生徒の理解度に合わせて授業が進められている」が、厳しい評価となった。教科書の内容がより豊富になり、十分な時間が確保できていないことが一因と考えられる。また、「授業で学習した内容がだいたい理解できている」については2学年において厳しい評価となっている。これは内容がより難化している点はもちろんだが、1学年での学習の定着不足が影響していると考えられる。内容が豊富になり、積み重ねを必要とするという教科の特性があるため、生徒同士で話し合ったり、意見発表の場をつくらなければならない面があるが、失敗や誤りを恐れずに発言させる機会をつくり、積極的に取り組む雰囲気や確立しよう心がけたい。また、学習内容が定着していない生徒に対しては、プリントや小テストの活用などを活用することで支援をしていきたい。 |
| 保健体育科 | 第一回と同様、「授業に意欲を持って取り組んでいる」との回答が 90%以上を占めた。また、「授業中、生徒同士で話し合う機会や意見などを発表する機会がある」以外の6項目では、肯定的回答の率が 90%を超えた。体育科としての取り組みが本校生徒に適合しており、生徒は積極的に授業に取り組むことができていると考えられる。一方、従来からの課題である「生徒同士の話し合いや意見交換を行う機会」については、否定的回答が第一回とほぼ同数である。今後はグループノートや学習カード等の継続的活用や、仲間とのコミュニケーションによる課題共有の機会を増やすなどの工夫が必要である。全体として生き生きと授業に参加している生徒が多いが、「1」「2」と答える生徒がいるのも事実である。その生徒のほとんどが「運動が好きではない」「動きたくない」など、運動をする楽しさや、できたときの喜びを体験できずにいると考えられる。今後は成功体験を持たせられるような段階的な指導を徹底していきたい。 |
| 外国語科 | 「A 授業への取組」の2項目では、9割以上の生徒が授業に意欲的に取り組み、また自発的に学ぼうとする姿勢が読み取れ、「1」「2」と回答をした生徒はいずれの項目も6%程度と、前回の結果と比べても改善が見られる。また、「B 授業の内容等」については、概ね9割以上の生徒がいずれの項目に対しても「4」「3」の回答をしている。以上のことから、各教科担当の生徒の実態に合わせた授業展開や工夫が、より生徒に受け入れられてきていると考えられる。しかし、どの項目においても依然として生徒の1割程度は満足しておらず、こういった生徒に対する個に応じた指導もさらに進めていかなければならない。今後も実際の生徒の状況に照らし合わせながら、外国語科で提唱されている4技能のバランスを意識した指導を追及し続けていく必要がある。昨年度同様に、文法を中心とした科目に関してもペアワーク、グループワーク等のアクティビティを取り入れ、作業の中で生徒が主体的に学べるような授業を実践していきたい。更に、生徒が意見を発表する機会や話し合う機会等を設けて、生徒が主体的に取り組む授業作りを心掛け、授業内容の定着を図りたい。また、授業内容の理解度が低い生徒に対しては、補習・追試等のきめ細かい指導を行い、学校全体としての英語力の底上げを図ってきたい。 |
| 家庭科 | すべての質問項目で、第一回よりも「3」「4」の回答が増え、生徒の取り組みが概ね良好であることが分かる。2学期は1・2年生ともに実習を行ったクラスが多く、興味や関心・意欲をもって取り組んだ結果であろう。昨年とは実習内容や、学習内容を変えたことが良い結果をだしたものと考えられる。取り組みについては、良好な結果が出たものの、学習した内容を理解し、実生活で生かすことができているかという視点で見ると、十分な結果が出ているとは思えず、更に具体的に取り組みやすい授業内容を考える必要がある。 |
| 情報科 | 第一回のアンケートに引き続き、「意欲を持って取り組んでいる」生徒の割合が高く、モチベーションを維持することに成功していることがわかる。「2」「1」と回答した生徒の割合が、1項目を除いて10%を割っており、多くの生徒に肯定的に受け入れられていることがわかる。特に「話し合う機会」「きめ細かい指導」については、4割台の生徒が「4」と回答しており、言語活動が行えていること、TTの効果で個別指導が多くできていることがわかる。一方で「理解度に合わせて」「分かりやすい」項目での、「4」の回答者の割合が低く、この項目については、課題が残っていることがわかる。 ・主に実習が伴う授業で、時間が十分に取れないことがあるため、時間配分に気をつけたい。 ・TTの体制を活かし、2人で効果的に進捗や理解度を測れるようにしていく。 ・モチベーションを維持し、言語活動が活発に行える授業を継続していく。 |